

プロポフォールとレミフェンタニル麻酔時の経鼻挿管に筋弛緩薬は必要か

井出 正俊

## 論文内容の要旨

レミフェンタニルは強い鎮痛作用を有し、侵害刺激に対する生体反応を抑制する。したがって経口挿管時にレミフェンタニルを投与すると、筋弛緩薬が無くても挿管可能となるという報告が多い。しかし経鼻挿管を対象にした報告はほとんどない。本研究ではレミフェンタニルとプロポフォール麻酔で経鼻挿管を行った場合の筋弛緩薬の必要性について検討した。

被験者にロクロニウムまたは生理食塩水をランダムに割り付け、挿管コンディションと唾液アミラーゼ活性を測定し、以下の結果を得た。

- 1) 喉頭展開の難度に有意差を認めなかった。
- 2) 挿管およびカフ注入時の反応、声帯の状態に有意差を認めた ( $p = .008$ 、 $p = .003$ )。
- 3) 挿管コンディションには有意差を認めなかった。
- 4) 挿管後の唾液アミラーゼ活性値は、ロクロニウムで有意に低下した ( $p = .022$ )。

以上より、レミフェンタニルとプロポフォール麻酔で経鼻挿管を行う場合、筋弛緩薬の必要性は低いと考えられた。

## 論文審査の要旨

本研究は、レミフェンタニルとプロポフォール麻酔で経鼻挿管を行う場合の筋弛緩薬の必要性を検討することを目的に、ロクロニウムまたは生理食塩水を用いたランダム化比較試験を行ったものである。その結果、ロクロニウムによって唾液アミラーゼ活性値は有意に低下したが、挿管コンディションに差を認めなかった。これらの知見は全身麻酔時の経鼻挿管施行に有用な示唆を与えるものである。

以上は、歯学に寄与するところが大きく、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。

主査 又賀 泉  
副査 富田 涼一  
副査 今井 敏夫

## 最終試験の結果の要旨

井出正俊に対する最終試験は、主査 又賀 泉 教授、副査 富田 涼一 教授、副査 今井 敏夫 教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。